

ホームページのご紹介

見やすく、分かりやすいサイトにリニューアルしました。



▲ 企業トップ

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/>



▲ 株主・投資家情報

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月に開催いたします	
基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞	

株主名簿管理人	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-288-324 (フリーダイヤル)

 **日本空港ビルデング株式会社**
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号
(第1旅客ターミナルビル)
TEL: 03-5757-8000
<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/>



株主・投資家の皆さまへ

株主通信

第69期 第2四半期
2012年4月1日～2012年9月30日



日本空港ビルデング株式会社

証券コード: 9706





代表取締役社長

鷹城 勲

当社グループは環境変化に対応するため、空室対策、飲食事業対策、新たな収益源の開拓などを最重要課題として収益改善に取り組んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第69期の第2四半期連結累計期間(2012年4月1日から2012年9月30日まで)のご報告をするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等を背景として緩やかな回復傾向であった景気が、世界経済の減速等によって弱めの動きに転じました。先行きについても、世界経済のさらなる下振れなど、景気を下押しするリスクもあり不透明な状況が続いております。

航空業界におきましては、航空旅客数は、前年度の震災の影響による大きな落ち込みからの反動もあり、国内線・国際線ともに対前年同期比で増加となりました。一方で、国際線航空旅客動向の先行きは、尖閣諸島問題の影響等が懸念されます。また、航空自由化(オープンスカイ)やLCC(ロー・コスト・キャリア)参入等による競争の激化、さらには、空港経営の徹底的な効率化や空港施設の集客力、収益力の強化等を目指した空港経営改革の推進の動きなど、航空業界はより一層のコスト競争力強化や環境の変化に向けた取り組みが求められております。

このような状況の下、当社グループは航空業界の一員として環境の変化に対

応するため、空室対策および飲食事業対策、ターミナル等事業運営コストの見直し、新たな収益源の開拓を最重要課題として収支改善に取り組んでおります。本年4月には、空室対策および新たな収益源の開拓策の一環としてコンパクトホテル「ファーストキャビン羽田ターミナル1」をオープンし、高い宿泊客室稼働率を維持いたしました。また、飲食事業についても食材仕入れや店舗運営方法の見直しを図り、収支改善に向けた取組みを推進しております。

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要課題の一つとして位置づけており、より一層積極的な姿勢で経営に取り組み、業績の向上に努め、羽田空港国内線旅客ターミナルビルの改修等を考慮し、内部留保を確保すると同時に、安定した配当を継続して実施することを基本としております。

中間配当につきましては、今後の事業環境や業績等を総合的に勘案し、検討を重ねた結果、1株当たり3.5円、期末配当予想を1株当たり3.5円とすることといたしました。これにより、年間配当金は1株当たり7円となる予定です。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年12月

当社グループは、羽田空港の成長ポテンシャルを中長期的に大きなビジネスチャンスとして捉えていくとの認識に変わりはありません。一方、航空自由化の加速やLCCの参入など、航空会社間における競争激化や、国管理空港の運営（上モノと下モノ）一体化への動きなど、当社グループを取り巻く環境は大きく変化しており、一層のコスト競争力の強化や環境の変化に向けた取組みが求められています。

そのような中、当社グループは『新しい空港運営の未来』の構築へ向けて、既存事業の再点検と事業基盤の強化、将来事業のあり方を具体化し、日本における空港ターミナルビル運営会社の先駆けとして、これら環境変化に対し、また航空業界全体の将来的なさらなる発展に対し、積極的に取り組んでまいります。

外部環境の変化

- 航空業界が世界との競争環境へ
 - 航空自由化、LCCの急成長
 - 空港経営改革の必要性(徹底的な効率化、収益力の強化)
- 首都圏空港の発着枠の拡大(羽田:39.7万回→44.7万回)
- 近隣諸国との領土問題等による訪日外国人の減少

内部環境の変化

- 航空会社の経営合理化の影響による空室の発生
- 地代(国有財産使用料)の値上げ
- 羽田旅客構造の変化
(国内線旅客数は頭打ち、国際線は増加傾向)
- 成田、関空における事業環境の変化

「新しい空港運営の未来」の構築へ向けて、既存事業の再点検と事業基盤の強化、将来事業のあり方を具体化

羽田空港における事業展開と魅力あるターミナルづくりの推進

- 第2旅客ターミナルビル3スポット増設
- 内陸乗継施設整備の検討
- 国際線連携強化、ホテル事業参画
- 羽田跡地開発への積極的参画
- 船着場運営事業強化

羽田空港のポテンシャルの最大化

- 当社グループ自ら新たな需要を創出
- UHHA(ユーハ)構想推進によるグローバル教育施設の拠点化
 - ロボット特区による技術産業拠点化

羽田空港外でのチャレンジ

- 当社グループが有する既存事業の強みやノウハウを戦略的に活用
- 海外空港での新たな事業検討
 - 市中での新たな事業を検討



抜本的なコスト構造改革

さらに、航空業界を取り巻く厳しい事業環境の変化に耐えうる企業体質の強化を図ることを目的に当社としても従来のコスト削減に加え、抜本的なコスト構造改革を実施する。



新たな展開ステージへ



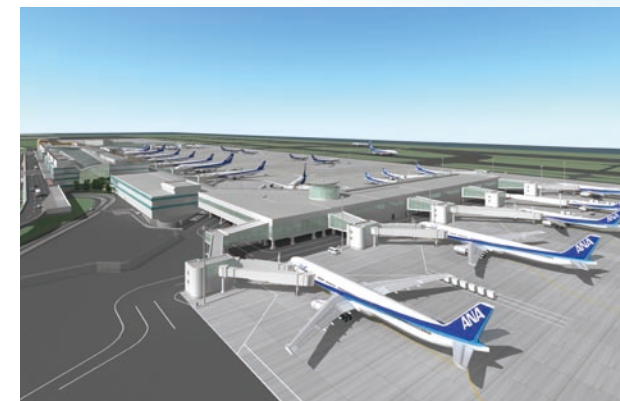
羽田空港における事業展開と魅力あるターミナルづくりの推進

第2旅客ターミナルビルⅣ次計画

国による羽田空港国内線第2旅客ターミナルビル南側エプロン整備(3スポット増設)にあわせて当社が進めている第2旅客ターミナルビルⅣ次計画(固定橋、出発待合室、到着コンコース増築)は、順調に工事が進み、2013年4月に完成を予定しております。

完成後はターミナルビルから直接飛行機へ搭乗するための固定橋が3か所増えるとともに、約200mの商業店舗がオープンします。

また、この工事にあわせて、同ターミナルビルの中央商業エリア(マーケットプレイス)5階を増床し、航空旅客以外のお客さまにも楽しんでいただける施設を設置する予定です。



完成イメージ



増築工事状況(本年10月現在)



5階増床イメージ



羽田空港における事業展開と魅力あるターミナルづくりの推進

国際線旅客ターミナルビル運営事業

羽田空港の国際線は、2013年夏季スケジュール以降、中国、中東諸国および欧州便の増加が見込まれております。

さらに、2014年夏季スケジュール以降は発着枠が現在の6万回から、需要の多い昼間の時間帯に3万回追加されることにより9万回へ拡大され、1日あたりの便数は120便に達し、旅客の大幅な増加が見込まれております。

これに対応するため、羽田空港国際線旅客ターミナルビルでは現在、当社が中核となって航空会社等と出資設立した、東京国際空港ターミナル株式会社 (TIAT) が、同ターミナルビルの拡張工事を進めております。2014年秋の完

成に向け段階的に供用開始し、完成後はターミナルビルから直接飛行機へ搭乗できる固定橋が8か所増えるとともに、新たな商業店舗や当社と三菱地所グループが共同運営するホテル「(仮称)ロイヤルパークホテル ザ 羽田」が開業いたします。

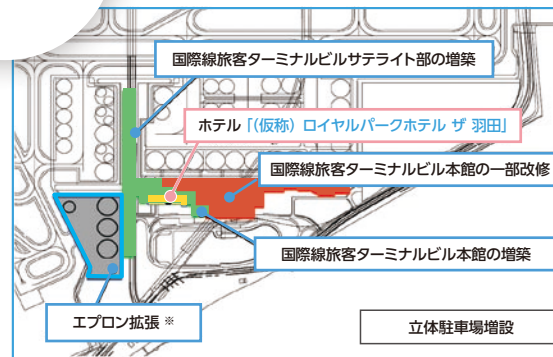
当社グループは引き続き、施設維持管理、商業店舗運営・企画、旅客サービス等の基幹業務の運営を一括受託し、あわせて物販・飲食、旅行業等の事業展開を行ってまいります。



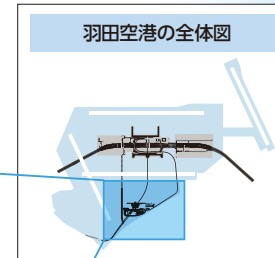
完成イメージ



ターミナルビル拡張イメージ



※ エプロン拡張は国が施工
 出典：TIATプレスリリース



国際線旅客ターミナルビル

船着場運営事業

羽田空港の利点を生かし、観光振興面および防災対策面での活用を考慮し設置した船着場では、2011年7月の運用開始から、さまざまなイベントを実施してきました。

今後の展開として、お台場、横浜、浅草、千葉方面といった観光地と水上アクセスで結ぶことにより、羽田空港を拠点とした新たな観光需要を創出させることなども検討しております。



羽田のクルーズを盛り上げる最新鋭メガクルーザー



日の丸自動車興業株式会社との共同企画「スカイバスで行く羽田クルーズツアー」なども実施しました。



羽田空港のポテンシャルの最大化 ●●●●●

UHHA プロジェクト

当社は、日本における高等教育グローバル化の第一人者として活躍されている、中嶋嶺雄氏（国際教養大学学長、秋田県秋田市）の掲げるビジョンに共鳴し、University Hub Haneda Airport (UHHA) の構想実現に向け協力し、その中心的役割を担っています。

UHHA 構想とは、変化の速いグローバル時代において、喫緊の課題である国際標準の人材育成・交流の促進、その仕組みづくり等により高等教育の国際化を推進し、これらにより国際競争力の維持を実現することを目的として、羽

田空港を情報・文化および高等教育機能の拠点として、ハブ化しようとする構想のことです。

当社は、羽田空港が有する航空ネットワークハブ機能のポテンシャルを最大限に活用することで、高等教育のハブ化構想を支援するとともに、「日本の高等教育のグローバル化」の実現のために発足した各界の有識者による、UHHA エグゼクティブ・コミッティが発する提言を今後のターミナル運営に反映させていきたいと考えています。

『国際通貨基金・世界銀行年次総会2012』アフターカンファレンス 第1回UHHAシンポジウム開催

当社は本年10月、羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル6階ギャラクシーホールで「第1回UHHAシンポジウム」を開催しました。本シンポジウムは、世界銀行東京事務所の後援のもと、世界最大の国際会議であり48年ぶりに東京で開催された「国際通貨基金・世界銀行年次総会2012」のアフターカンファレンスとして位置づけられ、本年3月に発足したUHHAプロジェクトの目的である、羽田空港の拠点機能を情報・文化の発信基地として有効活用し、グローバル人材育成への貢献およびグローバル化を進める各大学（学生）の支援を推し進める産官学連携施策の一環として実施されました。

「文明社会の成熟とは」を基調テーマとして、スリ・ムルヤニ・インドラワティ氏（世界銀行専務理事）の特別講演、猪瀬直樹氏（東京都副知事、UHHA エグゼクティブ・コミッティメンバー）の基調講演のほか、板東久美子氏（文部科学省高等教育局長、UHHA エグゼクティブ・コミッティメンバー）、黒田玲子氏（東京理科大学総合研究機構教授／東京大学名誉教授）、その他企業パネリストによるパネルディスカッション等、学生を代表して「Development Japan」の学生達も加わり、活発な意見交換・議論が展開されました。



羽田空港外でのチャレンジ ●●●●●

海外空港での新たな事業展開（中国）

当社は、2011年1月に中国成都市において中国現地法人「羽双（成都）商貿有限公司」を設立し、物販事業として同年6月、成都双流国際空港第1ターミナルビル国際線出発ロビー内に、日本ブランドを中心とした総合ギフトショップ「旅の佳品」1号店を開業し、同空港第2ターミナルビル供用開始に伴い本年8月、国内線出発ロビー内に「旅の佳品」2号店を開業しました。

また、飲食事業としては、2011年11月、成都イトーヨーカ堂5号店（高新店）地階食品売場内に、洋食店「佳慕（ジャム）」1号店ならびに日式ラーメン店「佳慕」2号店を開業し、本年9月には成都イトーヨーカ堂2号店（双楠店）5階飲食フロア内に、洋食店「佳慕」3号店を開業しました。

これにより、現在の中国事業は、物販2店舗、飲食3店舗の合計5店舗展開となっており、今後の日中間の交流促進に良い影響をもたらすとともに、当社グループの企業価値向上に貢献できるよう現地スタッフと一丸となって、努めております。



「旅の佳品」2号店



「佳慕」3号店

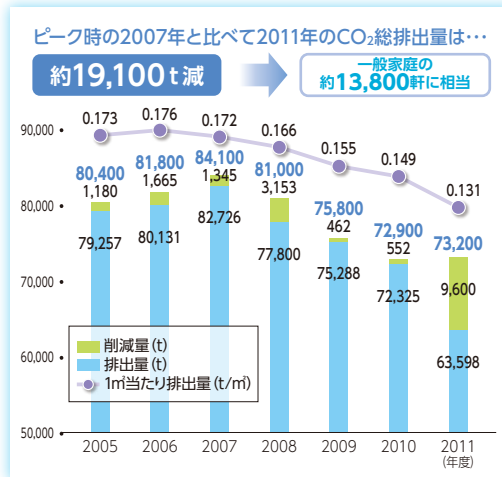


環境・エネルギー問題への対応

CO₂削減への取組み

羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおけるCO₂削減への取組みは、東京都のCO₂削減報告に関する条例を受けて2005年度から本格的に実施してまいりました。ご利用いただくお客さまの快適性に配慮しながら設備の更新・改修計画、運用改善を実施した結果、CO₂排出量ピーク時(2007年度約82,700t)に比べて2011年度までに約19,100t減(一般家庭約13,800軒分のCO₂総排出量に相当)という結果を得ることができ、特に2011年度は東日本大震災の発生から、電力需給対策により推進した結果、年間約9,600tのCO₂削減を達成しました。2005～2011年度(7年間)の年度別削減結果は、右のグラフの通りです。

その他の取組みとしては、再生可能エネルギーを有効活用するため、グリーン電力証書(300万kwh)を毎年購入し、本年からは新たにグリーン熱証書(59万kwh)も購入する予定です。



省エネへの取組み

当社は、これまでの省エネへの取組みに満足することなく、ターミナルビルをご利用いただく航空旅客の皆さまおよび入居いただいている皆さまにも満足いただけるよう、あらゆる設備の効率化への検討を含め、最新の技術等の導入にも、積極的に取り組んでまいります。

主な対策

空調機のインバータ制御拡大導入、照明機器のLED化の一層の推進、外壁窓に断熱・遮熱塗料およびフィルムの設置、太陽光発電設備の追加導入および蓄電池導入などを検討しております。



災害への対応

津波への対応

羽田空港国内線旅客ターミナルビルでは、大津波警報発表時に旅客を速やかに安全なエリアへ誘導するため、大型のA1サイズを含む案内サインを、ターミナルビルの全避難扉に設置しました。

また、本年8月には、第2旅客ターミナルビルにおいて、大津波警報が発表されたことを想定した、総合防災訓練を官民合同で実施しました。



地震への対応

建物の耐震性をより高めるために、天井部、固定橋、渡り廊下(連絡橋)、エスカレータ等の補強、防災垂れ壁のフィルム化による軽量化等を計画中です(今年度から段階的に更新)。

また、災害用備蓄品として、東京都帰宅困難者対策条例の施行を見込み、食糧・飲料水の備蓄量を大幅に増加させ、さらに災害弱者の方々にも使いやすい簡易トイレを導入するなど、備蓄品の充実にも力を入れております。



その他の対応

地震・津波・火山の噴火などを警報段階から入手できる端末を導入するとともに、それらが発生した際に、迅速に情報を伝えるために館内モニターを災害警報・情報表示に切り替えて的確な情報を提供します。

また、誘導灯フラッシングによる視覚効果、音声による誘導等、障がい者への配慮も段階的に進めております。

館内全職員へ、ポケット版防災マニュアルを3万部作成・配布し、不測の事態にも冷静な判断と行動ができるよう一丸となって対応しております。



「PIER1」「PIER4」リニューアルオープン

本年10月、羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル2階出発ロビーの物販店「PIER1」「PIER4」をリニューアルオープンしました。同店は、セレクトされた商品を分かりやすくカテゴリ別に配列し、食品庫をイメージした店舗レイアウトとなっています。新規取扱ブランドもラインナップに加え、シェフコラボ商品や羽田空港限定商品など“探す楽しさ”に出会える店舗です。



「facebook」公式ファンページオープン

当社は本年8月、ソーシャル・ネットワーキング・サービス「facebook」において、羽田空港国内線ターミナルの公式ファンページをオープンしました。

公式ファンページでは、羽田空港のおすすめ商品やショップ、スポット情報をご紹介するほか、羽田空港をより楽しんでいただけるような空港の歴史や舞台裏などの情報を発信しております。またBIGBIRDホームページにfacebookページへのリンクを設置し、ソーシャルメディアとの連携を強化し、お客さまとのリアルタイムな双方向コミュニケーションを目指します。

当社は今後も、皆さまにご満足いただけるターミナルビルを目指して、さらなるサービス向上に取り組んでまいります。



facebook公式ファンページ | URL: <http://www.facebook.com/haneda.airport>

プライベートブランド 第3弾

プライベートブランド商品第3弾「ハッピーマロン」登場

「羽田空港をご利用されるお客さまに“しあわせ”を感じていただきたい」「空港から“しあわせ”をお届けしたい」との思いで立ち上げたプライベートブランドの第3弾として、「ハッピーマロン」を本年10月に発売しました。ハッピーマロンは栗をまるごと包み込み、風味豊かなマロンクリームと合わせた、しっとりふわふわのドーム型バームクーヘンです。多様化するお客さまのニーズに応えられるように、販売スタッフを中心としたプロジェクト・チームが商品開発に努めました。今後も「羽田からハッピーの輪を広げよう」のコンセプトのもと、新商品をお届けしていく予定です。



羽田スタースイーツ 第10弾

「羽田スタースイーツ」に新ブランドが登場

2008年12月にオープンした「羽田スタースイーツ」は、多くの皆さまからご好評をいただき、現在、第10弾を展開中ですが、今回新たに「シーキューブ」が加わりました。

シーキューブは、イタリアの素晴らしい食文化とコミュニケーション文化を伝えるために、明るくおおらかで遊び心のあるお菓子屋を目指しています。

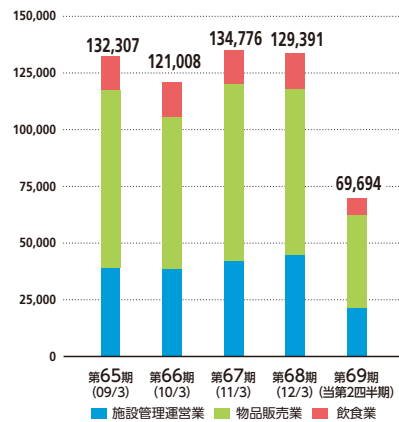
心地良い苦味のエスプレッソと、ミルクィな北海道マスカルポーネをたっぷり使ったシーキューブこだわりの「ティラミス」やギフト用として「ティラミス焼いてみました!」がおすすめです。



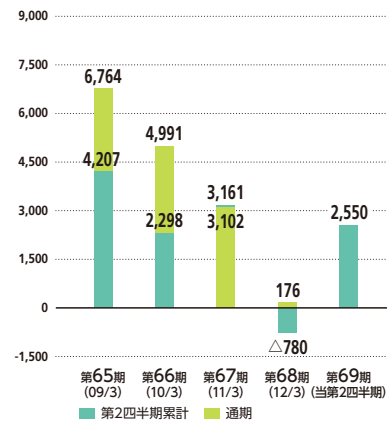
決算のポイント

営業収益は、震災の影響からの回復による航空旅客数の増加などにより前年同期比二桁増、営業利益、経常利益、四半期純利益とも前年同期のマイナスからプラスに転じました。

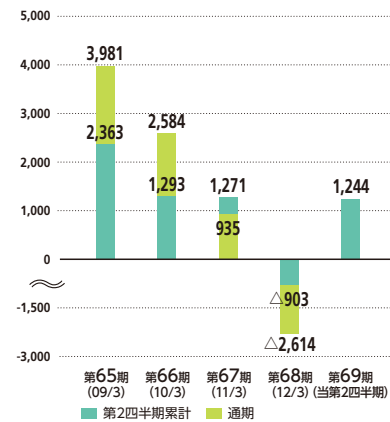
営業収益(百万円)



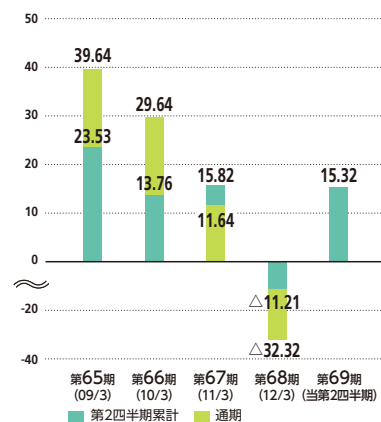
経常利益(百万円)



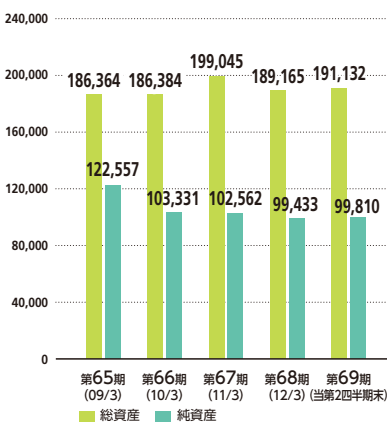
四半期(当期)純利益(百万円)



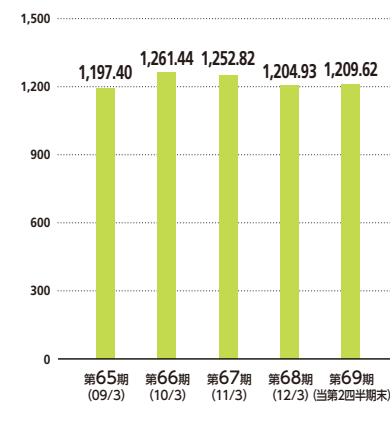
1株当たり四半期(当期)純利益(円)



総資産/純資産(百万円)



1株当たり純資産(円)



(単位:百万円)

四半期連結貸借対照表(要旨)	前期	当第2四半期
	2012年3月31日現在	2012年9月30日現在
流動資産	36,760	37,113
固定資産	152,404	154,019
有形固定資産	127,912	126,088
無形固定資産	2,303	2,079
投資その他の資産	22,188	25,850
① 資産合計	189,165	191,132
流動負債	26,985	28,529
固定負債	62,745	62,792
② 負債合計	89,731	91,321
株主資本	99,379	100,339
その他の包括利益累計額	△1,500	△2,080
少数株主持分	1,555	1,551
純資産合計	99,433	99,810
負債純資産合計	189,165	191,132

(単位:百万円)

四半期連結損益計算書(要旨)	前第2四半期	当第2四半期
	自2011年4月1日 至2011年9月30日	自2012年4月1日 至2012年9月30日
③ 営業収益	62,587	69,694
営業総利益	32,239	35,117
販売費及び一般管理費	32,476	32,540
④ 営業利益又は営業損失(△)	△237	2,577
営業外収益	776	948
営業外費用	1,319	975
経常利益又は経常損失(△)	△780	2,550
特別利益	26	-
特別損失	46	119
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△800	2,431
法人税等	159	1,160
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△960	1,270
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△57	26
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△903	1,244

詳細な財務情報は、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください ▶ <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/>

- ① ▶ 資産合計/減価償却に伴う有形固定資産の減少があったものの、投資有価証券の増加等により、前期末と比べ19億6千7百万円増加し、1,911億3千2百万円となりました。
- ② ▶ 負債合計/長期借入金の増加等により、前期末と比べ15億9千万円増加し、913億2千1百万円となりました。
- ③ ▶ 営業収益/震災の影響からの回復による航空旅客数の増加や羽田空港国内線第1旅客ターミナルビル・リニューアル計画の一環である商業活性化策等により、前年同期比11.4%増の696億9千4百万円となりました。
- ④ ▶ 営業利益/コスト削減の取組みに加え、減価償却費が逡減したこと等により、前年同期2億3千7百万円の損失から25億7千7百万円の利益に転じました。

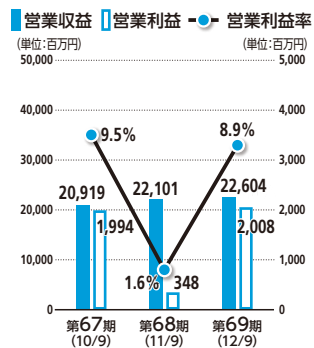
施設管理運営業

家賃収入につきましては、羽田空港国内線旅客ターミナルビルにおける航空会社用事務室の貸室返却が影響し、前年同期を下回りました。

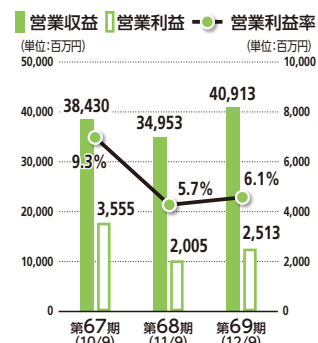
施設利用料収入につきましては、東日本大震災の影響等により減少していた航空旅客数の回復傾向が続いたことにより、国内線施設利用料収入が増加し、前年同期を上回りました。

その他の収入につきましては、航空旅客数の回復に伴う駐車場収入やエアポートラウンジ収入の増加および第1旅客ターミナルビルにおけるコンパクトホテル「ファーストキャビン羽田ターミナル1」の新規オープン等により、前年同期を上回りました。

その結果、施設管理運営業の営業収益は226億4百万円(前年同期比2.3%増)、営業利益は、前年同期計上の第1旅客ターミナルビルの改修工事に伴う修繕費の減少や減価償却費の逡減等により、20億8百万円(前年同期比476.8%増)となりました。



物品販売業



国内線売店売上につきましては、航空旅客数の回復に加え、国内線第1旅客ターミナルビル出発ゲートラウンジ内における新規直営店舗展開や羽田空港オリジナル商品の発売等で販売促進を図ったことにより、前年同期を上回りました。

国際線売店売上につきましては、航空旅客数の回復に加え、成田国際空港における店舗のリニューアルやオリジナルキャンペーン等の積極的な営業施策および関西国際空港における新規直営店舗展開等により、前年同期を大きく上回りました。

その他の売上につきましては、国際線旅客ターミナルビル店舗や他空港への卸売の増加等により、前年同期を上回りました。

その結果、物品販売業の営業収益は409億1千3百万円(前年同期比17.1%増)、営業利益は25億1千3百万円(前年同期比25.3%増)となりました。

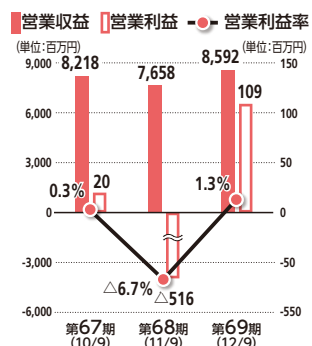
飲食業

飲食店舗売上につきましては、航空旅客数の回復に加え、新規店舗展開、顧客獲得のための積極的な営業活動等により、前年同期を上回りました。

機内食売上につきましては、東日本大震災および原子力発電所事故の影響等による外国航空会社の減便が回復したこと等が増収要因となり、前年同期を上回りました。

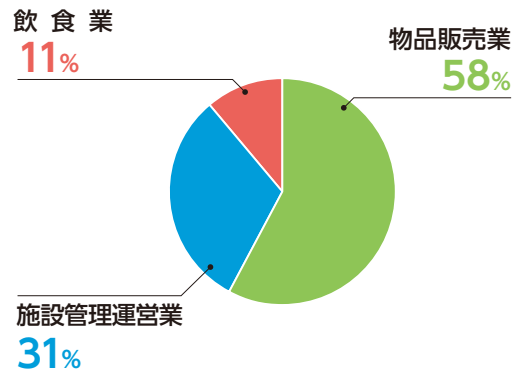
その他の売上につきましては、国際線旅客ターミナルビルにおける航空会社ラウンジの運営業務受託の増加等により、前年同期を上回りました。

その結果、飲食業の営業収益は85億9千2百万円(前年同期比12.2%増)、営業損益は1億9百万円の利益(前年同期は5億1千6百万円の損失)となりました。



本文内の事業別営業収益には、セグメント間の営業収益が含まれます。

第69期第2四半期 営業収益比率



当社では3月31日時点の株主さまに対して、毎年6月下旬の年1回、以下の株主ご優待券を配布させていただいております。羽田空港国内線旅客ターミナルビル内物販・飲食店舗、エアポートラウンジおよび羽田空港国際線旅客ターミナルビル、成田国際空港、関西国際空港等の指定店舗にてご利用いただけます。



ご所有株式数 100株以上1,000株未満の場合

ご優待券1枚 1,000円分

ご所有株式数 1,000株以上10,000株未満の場合

ご優待券2枚 2,000円分

ご所有株式数 10,000株以上の場合

ご優待券3枚 3,000円分

株主ご優待券は当社指定店舗にてご利用になれます。詳しくは、以下のURLをご覧ください。

http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/company/ir/stock_information/preferential.html

(2012年9月30日現在)

株式の状況

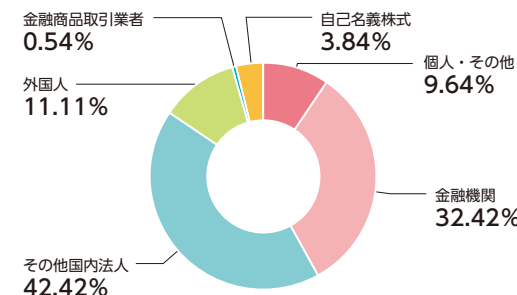
発行可能株式総数	288,000,000株
発行済株式の総数(うち自己株式 3,244,897株)	84,476,500株
株主数	5,962名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率* (%)
日本航空株式会社	4,398	5.41
全日本空輸株式会社	4,398	5.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・ 京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	4.28
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,408	4.19
三菱地所株式会社	3,111	3.83
株式会社みずほコーポレート銀行	3,000	3.69
大成建設株式会社	2,831	3.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,765	3.40
ジェーピーモルガンチェースバンク 385174	2,380	2.93
日本通運株式会社	2,337	2.87

*持株比率は自己株式(3,244,897株)を控除して計算しております。

所有者別株式数分布



会社概要

(2012年9月30日現在)

会社概要

商号	日本空港ビルディング株式会社 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
設立	1953年7月20日
資本金	174億8,920万円(東証一部上場)
事業内容	(1) 羽田空港旅客ターミナルビルの建設、管理運営 ①航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理 ②航空運送事業者および空港構内営業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸 (2) 物品販売業務 ①羽田空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務 ②成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務 ③関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務 (3) その他のサービス業務 ①羽田空港利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供 ②成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業

本社および営業所等

本社	東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (第1旅客ターミナルビル)
東京事務所	東京都千代田区大手町二丁目6番2号 日本ビル10階
成田営業所	千葉県成田市古込字込前164番地 (成田国際空港内コスモビル)
大阪営業所	大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地 (関西国際空港内旅客ターミナルビル本館1階)
中部営業所	愛知県常滑市栄町一丁目124番地

CORPORATE DATA

役員

取締役会長	門脇 邦彦
代表取締役社長執行役員	鷹城 勲
代表取締役副社長執行役員	土井 勝二
専務取締役執行役員	横田 信秋
常務取締役執行役員	越智 久男
常務取締役執行役員	阿南 優樹
常務取締役執行役員	浅野 文郎
取締役執行役員	松本 真澄
取締役執行役員	米本 靖英
取締役執行役員	河合 誠
取締役	高木 丈太郎
取締役	小谷 昌
取締役	大貫 哲也
取締役	洞 駿
取締役	櫻井 正志
常勤監査役	小川 洋一
常勤監査役	古賀 幸
監査役	赤井 文彌
監査役	樋口 公啓
監査役	大鷲 雅一
専務執行役員	田中 一禎
専務執行役員	山田 克爾
執行役員	丸岡 晋
執行役員	田村 幸宏
執行役員	徳武 大介
執行役員	田中 一仁
執行役員	大谷 益夫
執行役員	足立 仁
執行役員	久保 健治



1953年、当社は羽田空港の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。
現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念

「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、すべてのお客さまにご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と
企業性の調和

経営方針

- 旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
- 安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
- お客さま本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
- 企業体質の強化およびグループ企業の総合力向上

日本空港ビルディング(株)

施設管理運営業

- 保守管理
- **日本空港テクノ(株)**
空港ターミナル施設等の保守管理業、環境衛生管理および園芸管理
 - **羽田エアポートセキュリティ(株)**
警備業務および駐車場管理業務
 - **(株) 櫻商会**
エアポートクリーンセンター、廃棄物処理サービス
- サービス
- **(株) ビッグウイング**
広告代理業、イベントの企画および運営
 - **羽田旅客サービス(株)**
旅客サービス業務
 - **ジャパン・エアポート・グランドハンドリング(株)**
旅客ハンドリング業務

物品販売業

- **(株) 羽田エアポートエンタープライズ**
羽田空港、成田国際空港および関西国際空港における店舗運営業
- **国際協商(株)**
食品および雑貨の卸売事業
- **(株) 日本空港ロジテム**
商品の運送業および配送業
- **羽双(成都)商貿有限公司**
成都双流国際空港における物販事業および卸売事業
- **(株) 浜貝**
海産物等の卸売業および小売業

飲食業

- **東京エアポートレストラン(株)**
飲食店業および軽食の販売
- **コスモ企業(株)**
機内食製造販売
- **(株) シー・ティ・ティ**
航空機内用品および食器類の洗浄 ほか
- **会館開発(株)**
飲食施設の運営、宿泊・ホール・会議室の管理運営 ほか

グループ会社

トップメッセージ

特集

ビッグス

財務情報

事業別概況

株主情報

会社情報